



自動走行の取組状況について

平成27年7月2日

内閣府 SIP自動走行システム担当

「自動走行イノベーション推進関係府省連絡会議（仮称）」の開催について

1. 背景

- ・自動走行に関する各種実証プロジェクトについて、総合戦略2015、日本再興戦略2015、官民ITS構想・ロードマップ等において記載。
- ・このため、当該施策について、政府内での一層の連携を図るとともに、全体戦略をより明確化して、具体的なアウトカムにつなげることが極めて重要。
- ・このような問題意識の下、今後、これらに記載された実証プロジェクト等について、政府内で連携しつつ検討を進め、平成28年度概算要求につなげていくため、標記連絡会議を開催する。

2. 現状認識と検討事項

（1）現状認識：総合戦略2015、日本再興戦略2015、官民ITS構想等における記載内容

- ・国際中核拠点の整備と社会実証プロジェクトの推進（SIP、総合戦略2015、日本再興戦略2015、官民ITS構想）
 - ✓ 既存の拠点を有効活用。「グローバルな合意形成に主導的役割」、「AI化を踏まえた産学官連携・人材確保」等についても考慮
- ・2020年に向けた取組（SIP、総合戦略2015、日本再興戦略2015、官民ITS構想）
 - ✓ 次世代都市交通システム（ART：Advanced Rapid Transit）、高齢者等の移動手手段の確保、隊列走行の実現
- ・完全自動走行と特区の活用（日本再興戦略2015、官民ITS構想）
 - ✓ 「アワード型手法の検討」についても考慮。

（2）検討事項

- ・我が国の自動走行を見据えたプロジェクト全体の進め方（内閣官房IT総合戦略室、内閣府）
 - ✓ 3つの具体像を踏まえた戦略の明確化、連携体制
- ・個々のプロジェクトの体制と概算要求の進め方（関係省庁）
 - ✓ 担当省庁、実施体制の明確化
 - ✓ 実証プロジェクト等の内容の明確化、実証場所の検討方向
 - ✓ 概算要求額の方角 ほか

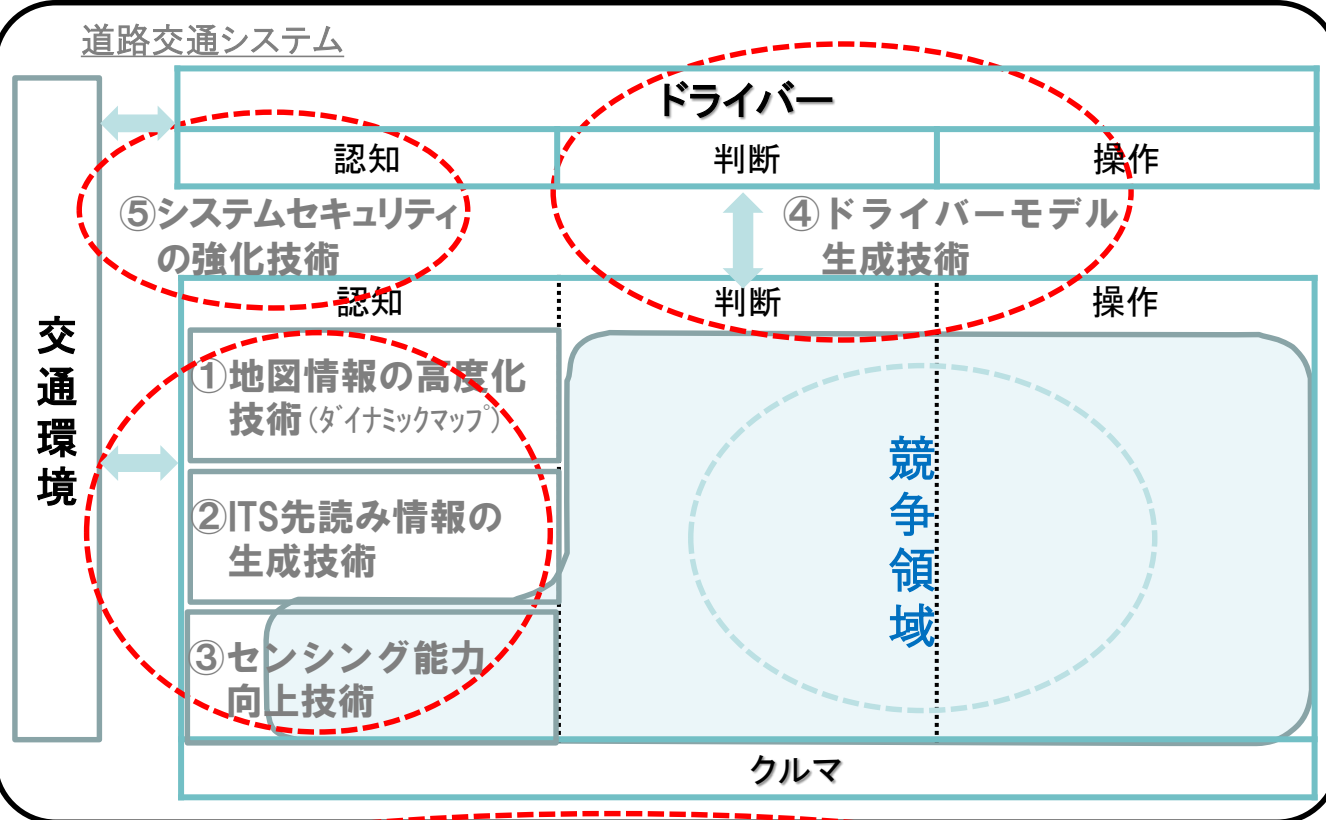
3. 連絡会議の進め方（案）

- ・7月中を目途に数回開催して結論（簡単な報告書を作成）。事務局は、内閣官房IT総合戦略室と内閣府。
- ・参加府省庁：内閣府、関係省庁（警察庁、総務省、経済産業省、国土交通省）等

SIP自動走行システムの研究開発テーマ

- 自動走行システムの実用化に向け、国として協調して取り組むべき領域を決定。
- 基盤技術、システム開発、国際連携、イノベーションの現場（都市）を網羅的にカバー。

[I]自動走行システムの開発・検証



[III]国際連携の構築

- ①国際的に開かれた研究開発環境の整備と標準化推進
 - ②自動走行システムの社会受容性の醸成
 - ③国際パッケージ輸出体制
- ①地域マネジメントの高度化
 - ②次世代公共道路交通システムの開発
 - ③アクセシビリティの改善と普及

[IV]次世代都市交通への展開

- ①死者低減効果見積もり手法 & 国家共有データベース
- ②ミクロ・マクロデータ解析とシミュレーション技術
- ③地域交通CO₂排出量可視化技術

[II]交通事故死者削減・渋滞低減のための基盤技術の整備

協調領域
(SIPの取組み領域)